

消毒の方法と種類について

農場への病気の侵入防止、持ち出し防止、家畜の健康を守るために、消毒は大切な作業です。

感染源
(病原体)

感染経路

家畜

この部分を、清掃・消毒で対策！

1.水洗

2.乾燥

3.消毒

- 糞便や泥など、有機物が残っていると消毒の効果が低下します。
- 床面などに水分が残っていると、消毒の効果が低下します。
- 消毒薬は用量・用法を守って使いましょう。

消毒薬の種類と対象となる微生物 早見表

※薬剤、病原体の種類により異なる場合があります。使用前に、取扱説明などを十分に確認しましょう。

消毒薬の種類	細菌			ウイルス※		マイコプラズマ	真菌	コクシジウム
	グラム陽性	グラム陰性	芽胞	エンベロープ有	エンベロープ無			
逆性石けん パコマ、クリアキル、オスバン等	○	△	×	△	×	○	△	×
塩素系 アンテックビルコンS、クレンテ等	○	○	△	○	○	○	○	×
ヨウ素系 バイオシッド、クリンナップ等	○	○	△	○	○	○	○	×
アルデヒド グルタプラス等	○	○	○	○	○	○	○	△
オルソ剤 トライキル、タナベゾール等	○	○	×	△	×	○	○	○
アルコール	○	○	×	○	×	○	△	×
消石灰	○	○	×	○	△	○	○	封じ込めに有効

※エンベロープ有：BVDMDウイルス、牛RSウイルス、コロナウイルス、豚コレラウイルス、鳥インフルエンザウイルス等
 エンベロープ無：アデノウイルス、ロタウイルス、豚サーコウイルス、口蹄疫ウイルス 等

- ：有効
- △：十分な効果が得られない場合あり
- ×：無効(厳密なものではない)

〈参考〉
 動物医薬品検査所HP、畜舎の消毒について((社)中央畜産会、2012年) 等

★消毒薬の使用上の注意★

用量・用法を守って、安全に使用しましょう！

1. 消毒薬の注意書きを確認

消毒薬は、効果のある病原体が異なるだけではなく、使用できる物品、適切な濃度も異なります。目的と薬剤に合わせて、適切な方法で使用しましょう。

2. 種類の違う消毒薬を混ぜない

アルカリ性と酸性の薬剤(例:消石灰とビルコン)を混ぜると効果がなくなります。また、異なる塩素系や酸性の薬剤を混ぜると、塩素ガス(有毒)が発生することがあります。

3. 作業者の安全に注意して使用

刺激性の強い消毒薬があります。濃度調整時などは、手袋やマスク、ゴーグル等を装着して、安全に使用しましょう。

4. 適切・安全な場所に保管

基本的には、直射日光・高温・多湿を避けて保存しましょう。

幼児の誤飲防止のため、手の届くところや、飲料の容器には保管しないようにしましょう。また飼料等に混入しないよう、場所を決めて保管しましょう。

5. 畜体への使用、休薬期間に注意

畜体への噴霧を禁止している消毒薬があります。畜体に使用できる薬剤でも、使用禁止期間や休薬期間を確認して使用しましょう。

例:パコマ

使用禁止期間 : (飲水消毒)鶏 5日間

休薬期間 : (畜体への噴霧)牛豚等 5日間、鶏 3日間

消毒薬の希釈

※ペットボトルのキャップ1杯で約5mLです。

作ろうとする希釈倍率に 必要な消毒薬の量

水(L)	100倍	200倍	500倍	1000倍
10L	100mL	50mL	20mL	10mL
20L	200mL	100mL	40mL	20mL
50L	500mL	250mL	100mL	50mL
100L	1L	500mL	200mL	100mL



飛騨家畜保健衛生所

(飛騨総合庁舎内)

〒506-8688 高山市上岡本町7-468

TEL:0577-33-1111

FAX:0577-32-9019

E-mail: c24508@pref.gifu.lg.jp